

COLUMN Vol.1

民間企業から 政治というキャリアへ

コラムについて

このコラムは、金村りゅうななどご縁のある方々に寄稿をして頂くコーナーです。

私は広告代理店を経て、障がい者の就労を支援する企業に転職しました。そして、仕事に活かそうと行政や法律を勉強するために政治塾に入った事をきっかけに、仕事と並行して議員事務所で政策スタッフとして働きはじめました。

そこで一番強く感じたのは、「当事者がいない」こと。障がいのある人や子育て中の人だけでなく、女性議員もまだ少ないのが現状です。育児をほとんどしてこなかった男性議員が少子化対策を考えても、実際のニーズとズレが生まれるのは当たり前だと思います。

その点、金村さんは子育て当事者として「当事者目線の政策」を国会でも提案しており、このような政治家が増える必要があると思います。

目指しているのは、もっと多様な声が届く議会です。子育てをしながら民間で仕事をし、地域で普通に暮らす私だからこその提案があります。今まで政治と距離を感じてきた人達に「私達の困り事って政治で解決できるんだ!」と知って貰う事がモチベーションとなっています。



株式会社ゼネラルパートナーズ広報室長
佐藤古都さん

1988年4月22日、静岡県に生まれる。一児の母。大手広告代理店で勤務したのち、2018年に障がい者専門の人材紹介会社・ゼネラルパートナーズ入社。現在まで広報室長を務める。2021年、日本維新の会から都議選に挑戦。

市議選挙・県議選挙の候補者募集中!

2023年4月には、川崎市においても川崎市議会議員選挙や神奈川県議会議員選挙など、各自治体で選挙が行われます。今の日本が様々な課題を抱えている中で、政治を活用して「住みやすい街を作りたい」「地域の課題解決に携わりたい」という方がおりましたら、お気軽に金村りゅうな事務所までご連絡下さい。

金村りゅうな のプロフィール

1979年4月6日生まれ(43歳)
城島光力衆議院議員(元財務大臣)の秘書を務め、川崎市内をくまなく歩く。
その後、川崎市内を含め、児童福祉施設を8カ所立ち上げる。現在、小学生の娘と5歳、4歳の息子をもつ3児の父として、共働きで子育て真っ最中。
2021年10月、衆院選で初当選。
2021年11月、神奈川維新の会代表就任。

■ 所属就任一覧
国会 厚生労働委員会、政治理論審査会
党内 国会対策福祉委員長 党改革プロジェクトチーム、子ども省ワーキングチーム



■ 川崎事務所
〒210-0836
川崎市川崎区大島上町 18-1 サニークレイン 201
TEL : 044-366-8680 FAX : 044-366-8681

■ E-mail : official@ryuna-kanemura.jp

■ 国会事務所
〒100-8982
東京都千代田区永田町 2-1-2 衆議院第二議員会館 421
TEL : 03-3508-7411 FAX : 03-3508-3891

■ HP : https://ryuna-kanemura.jp

RYUNA JOURNAL vol.5



国政報告 衆議院厚生労働委員会にて
エッセンシャルワーカーの
賃金アップを政府と議論

対談 子育て支援政策への
所得制限問題

コラム 民間企業から
政治というキャリアへ

神奈川10区 川崎区・幸区・中原区
日本維新の会 衆議院議員
金村りゅうな



「子ども育成基本法案」提出

政府の子育て政策への対案として、子ども育成基本法案を提出しました。引き続き、“教育”と“福祉”両方の観点から、子どもの育ちをワンストップでサポートしていける子育て政策を進めて参ります。



子育て支援策への所得制限問題 マイナスのメッセージを与えない子育て支援策を

子育て支援策における「所得制限」について、実際に3人の子育てをする金村と、5歳の娘を育てながら2021年の都議会議員選挙にチャレンジをした佐藤古都さんと当事者目線の政策対談を行いました。

金村 日本の子育て支援策を見ると、世帯主の年収にのみ所得制限がかかっているケースが非常に多いですね。これがそもそもの問題じゃないかと、当事者の一人と感じます。実際に、古都さんが周囲から聞く声はありますか？

佐藤 私の周りが一番心配しているのは、幼稚園・保育園の無償化に「所得制限」がかかるんじゃないかという事です。

金村 うちの事務所でも子育て中のお母さんが働いています。が無償化で費用が浮いた事で、保育園のオプションのコースなどを営業される人もいるそう。これでは、政府側は所得が高い人には制限かけようと、いつ考えてもおかしくないと思えます。これはやめた方が良いでしょう。

佐藤 そうですね。また、そもそも保育園に入れる人は無償化の恩恵を受けていますが、入れない人は恩恵を受けられません。子育て支援策は、子育て世代全体へのマイナスなメッセージにならない様にする必要があります。

対 談

衆議院議員
金村りゅうな

株式会社ゼネラルパートナーズ
広報室長
佐藤古都

金村 課題設定があつて、その克服のために効率化しなきゃいけないと言う方が、自治体はスピードが速くなります。大切なのは、「この支援をする為にはこのシステムが必要だね、だからDXを進めなちゃ」という事です。もっと自治体が明確にDXを打ち出していくためには、この子育て支援の問題に切り込むと凄くわかりやすいですね。

金村 所得制限も見方を変えると、世帯主の年収ではなくて、世帯年収を正確に把握するために、マイナンバーカードなど技術的な部分も整えていかなければならないと思います。

佐藤 やっぱ、マイナンバーを覚えて所得を把握していく事は必要です。それが子育て世代の不平等感を減らし、自治体の効率化にも繋がると思っています。

POINT 2

エッセンシャルワーカーの賃金アップを政府と議論



2022.3.9
厚生労働委員会

コロナ禍で改めて浮き彫りとなった医療、保育、福祉などに従事するエッセンシャルワーカーの待遇問題。川崎で児童福祉事業を運営してきた経験や、川崎で働く保育士との座談会で伺ったご意見をもとに、エッセンシャルワーカーの賃金アップについて後藤大臣と議論しました。

エッセンシャルワーカーの賃上げについて、安倍政権時代に政治が「賃上げ」と大きな声を上げ続けた結果、現場では従業員の声に応えるために実際に賃上げをした所もある。つまり、政治のメッセージは非常に大きいと考えているが、それについて厚労省としての取り組みや認識を伺いたい。

賃上げが非常に重要であるという認識を持っており、政府はそれに率先して対応していくべきだ。今後の具体的方向性については、職種ごとに適正な水準まで賃金を引き上げるとして検討していく。

後藤厚労大臣

エッセンシャルワーカーを重視しているというメッセージを常に発信して頂ければと思う。

結果 >> 政府が賃上げの具体的方向性を明言！

今回の質問によって、政府が目指す方向性が示されました。しかし、政府の施策はまだ国民の実感が伴う物ではありません。これを踏まえて地元の皆様のお声をもとに、引き続き今後の質疑で具体策の深掘りと、現場の声を形にする提案を行って参ります。

その他にも...

- ネット上の誹謗中傷対策強化、入管法改正に向けた提案 (2022.2.17)
- 蔓延防止等重点措置の効果検証、マスク生活が与える子ども達への影響について山際大臣と議論 (2022.3.4)
- 柔軟な育児休業給付金制度について提案 (2022.3.16)
- 成長産業への労働力の移転、障がい者も働きやすい雇用のあり方の多様化を提案 (2022.3.16)

続きは
YouTube